



Title	カンボディア王国の小学生のスポーツに対する意識と環境
Author(s)	岡田, 千あき
Citation	大阪外国語大学論集. 2007, 34, p. 177-200
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80002
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

カンボディア王国の小学生のスポーツに対する意識と環境

岡 田 千あき

The Attitudes of Primary School Students in the Kingdom of Cambodia to Their Sports Activities, and the Related Environment

OKADA Chiaki

The Kingdom of Cambodia is in the process of rebuilding the country after the “Paris Peace Agreement” in 1999. To develop the country education is, of course, one of the essential elements and sports in the schools also can be an important part of education. Therefore, Sports or Physical Education (P.E.) have been introduced into the school curricula through the great efforts of the regional officers who are each from their provincial office of The Ministry of Education, Youth and Sport (MoEYS). In the Cambodian Constitution chapter 6 [Education, Culture, Social Affairs], Article 65 it is written: “The State shall protect and upgrade citizens' rights to quality education at all levels and shall take necessary steps for quality education to reach all citizens. The State shall respect physical education and sports for the welfare of all Khmer citizens” Both sports education and education through sports (e.g. after school activities, competitions etc) are increasing in importance in the context of Cambodian education for the sustainable development.

This research is carried out for the purpose of collecting basic data on the present condition of school sports and analyzing problems of both school sports and of Cambodian education overall. To conduct this research, utmost cooperation was received from MoEYS Siem Reap Office and all the results were officially announced as a joint research by a report in Khmer. This research receives the financial support of the Japanese Ministry of Education 2004 – 2006 inclusive.

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、カンボディアの学校スポーツ環境の現状や問題点を把握すると共に、小学生がスポーツ実施に対して持つ意識や要望を明らかにし、今後のカンボディアの子どもの健全育成に資する総合的な学校スポーツプログラムの樹立に関する基礎資料を得ることを目的に実施した。

2. 調査対象者

2005年3月に実施された小学生全国大会への参加者から層化無作為抽出法により抽出。参加全24州から、参加人数等に応じて各20名～40名の計780名。

3. 調査方法等

- (1) 調査方法 質問紙を用いた留め置き法
- (2) 標本数及び標本抽出方法 参加全24州から州ごとに20～40(計780)
全国を24州に分割し(層化)、州ごとの参加者の中から
無作為にサンプル抽出
- (3) 有効回収数 691(有効回収率 88.6%, 23州から回収)
- (4) その他 調査を実施するに当たり、事前に各州の代表者会合を開き、調査の趣旨や方法等を説明した。

4. 調査の時期

平成17年3月1日～3月10日

5. サンプル属性

性別	男子	426 (61.6%)	学年	2 年生	2 (0.3%)
	女子	247 (35.7%)		3 年生	8 (1.2%)
	無回答 (不明)	18 (2.6%)		4 年生	32 (4.6%)
				5 年生	179 (26.0%)
年 齢	～ 11 才	27 (4.0%)	参加種目	6 年生	371 (53.7%)
	12 才	61 (8.8%)		無回答 (不明)	99 (14.3%)
	13 才	210 (30.4%)		サッカー	214 (31.0%)
	14 才	299 (43.3%)		バレーボール	221 (32.0%)
	15 才	65 (9.4%)		バスケットボール	78 (11.3%)
	16 才～	10 (1.4%)		陸上競技	87 (12.6%)
	無回答 (不明)	19 (2.7%)		無回答 (不明)	91 (13.2%)

第2章 基本調査結果

1. 学校のスポーツ環境

(1) 練習の回数及び時間

図1, 2は練習の日数及び時間を示している。週当たりの練習日数の平均は、4.6日であった。週5日以上回答が半数以上におよび、また、週7日の回答が30%弱見られた。休みの日でも学校外においてチームのメンバーが集まって練習する機会が多いと推測される。1回の練習時間の平均は、1.5時間であり、2時間以下との回答が全体の89.3%を占めた。

図1 あなたは週に何日練習をしていますか

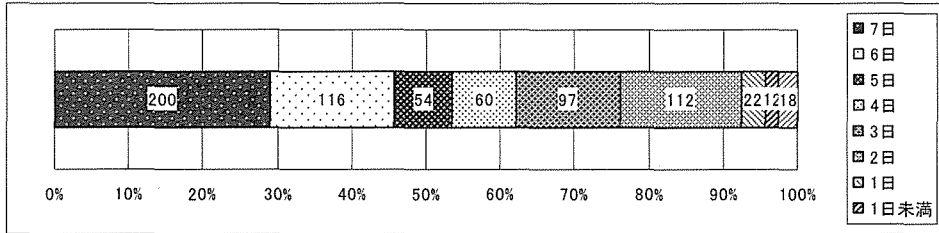
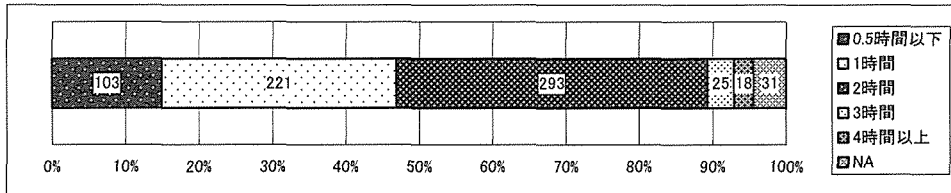


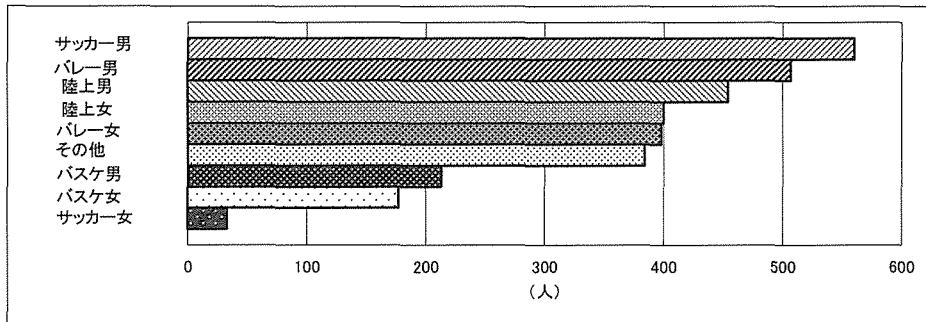
図2 1回の練習は何時間くらいですか



(2) 学校にあるチーム

図3は、参加者の学校にあるスポーツのチームを示している。サッカー（男子）のある学校が最も多く、バスケットボールは男女共に少ない値となった。「その他」は、全国大会の種目にはなっていないが、クライム・ジャンプロープを指している。

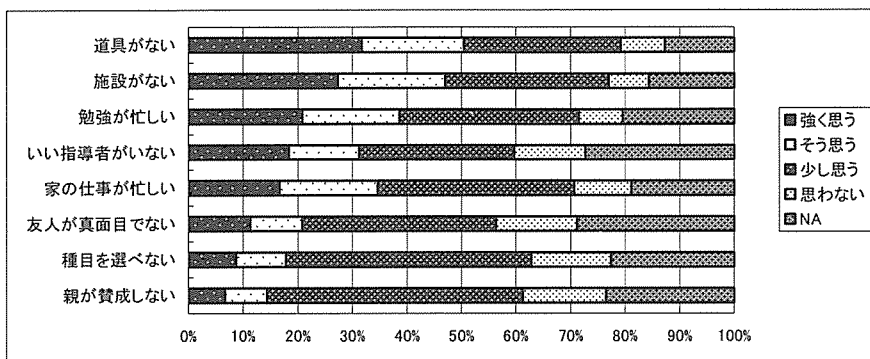
図3 あなたの学校にはどの種目のチームがありますか



(3) スポーツをする上での問題点

道具、施設の不足の問題が多く挙げられた。「強く思う」、「そう思う」、「少し思う」の総計では、道具と施設の不足に続いて、「勉強が忙しい」と「家の仕事が忙しい」という時間に関する回答が多く見られた。「親が賛成しない」は、予想に反して少なく、「強く思う」割合は、わずか6.7%に過ぎず、全国的に見るとスポーツ活動への参加に関して親の理解は得られていると言える。

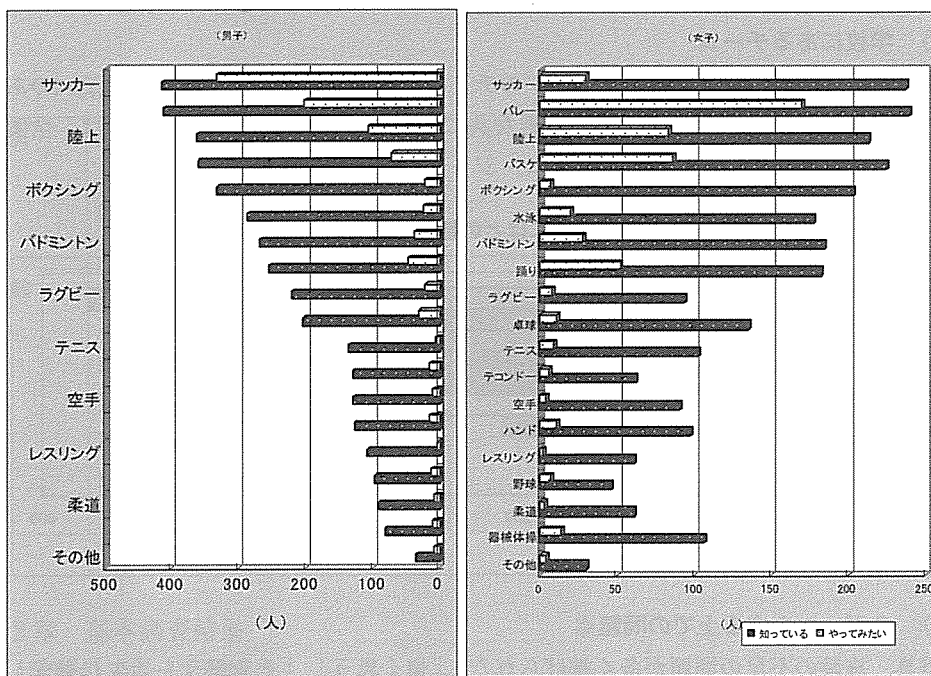
図4 あなたがスポーツ活動をする上での問題点は何ですか



2. スポーツに対する認識と意識

(1) 知っているスポーツとやってみたいスポーツ

図5 あなたの知っているスポーツ／やってみたいスポーツは何ですか



大会種目になっているバレーボール、サッカー、バスケットボール、陸上競技の認知度は当然ながら高かった。その他では、ボクシング、水泳、バドミントン、踊り、卓球がよく知られている。理由として、ボクシングはテレビ放映をされており、水泳は子どもたちの生活に近いところにあり、踊りは伝統文化としてのクメールダンスのことを指すと思われる。女子の間では、器械体操の認知度も高かった。やってみたいスポーツでは、男子は

サッカー、バレーボール、陸上競技、女子は、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、踊りの順であった。これらの種目が行われていない地区でも全国大会に参加することで、実際に競技を見ることができたためと思われる。

（2） 国際大会に対する興味

図6は、国際大会への興味を聞いたものである。「とても興味がある」が63%であり、「とても興味がある」と「興味がある」を合わせた回答は、80.3%であった。図7は、ボスニア・ヘルツェゴビナ、中国、アメリカ、日本の4カ国で行った比較調査「スポーツと健康に関する調査」の結果を参考として示している。ただし、この調査の対象者は小学生ではなく、中・高校生であり、単純に比較をすることはできない。「とても興味がある」割合は、ボスニア・ヘルツェゴビナの58.3%、中国の32.5%、米国の27.7%、日本の18.4%と比較して、高い値であった。

図6 あなたはオリンピックやシーゲームなどの国際大会に興味はありますか

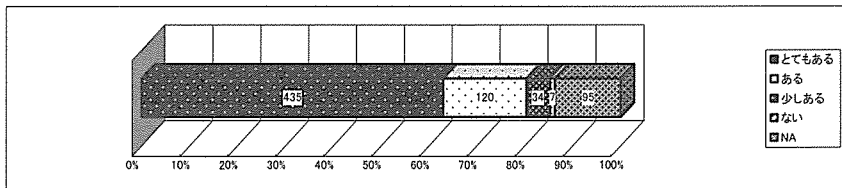
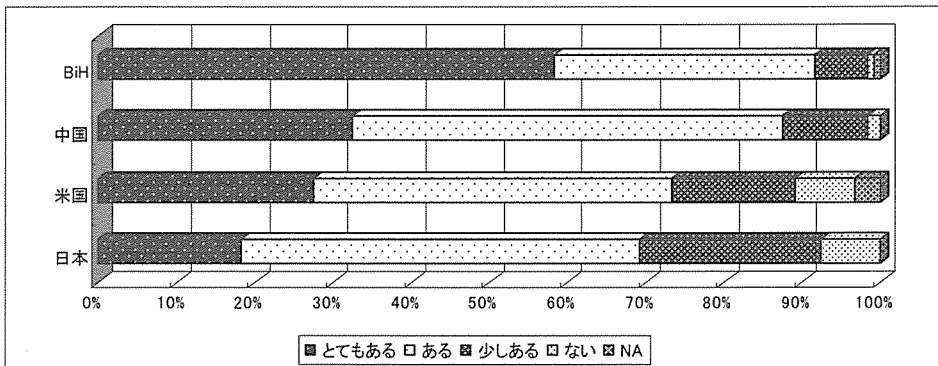


図7 あなたはオリンピックなどの国際大会に興味はありますか



（3） カンボディアのスポーツ力

図8が示すように、カンボディアがスポーツの強い国になって欲しいと「強く思う」割合は86.6%に上った。図9は、図7と同様に4カ国での調査結果を示している。「強く思う」割合は、中国の92.7%に続く高い値を示している。

図8 あなたはカンボディアがスポーツの強い国になって欲しいと思いますか

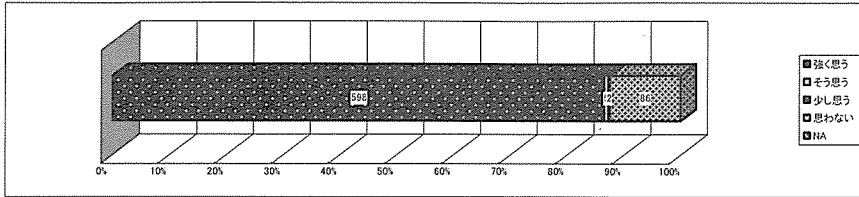
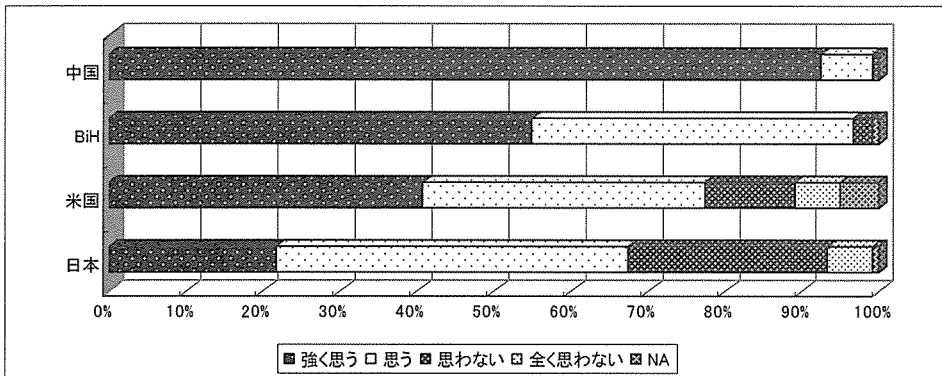


図9 あなたはあなたの国がスポーツの強い国になって欲しいと思いますか

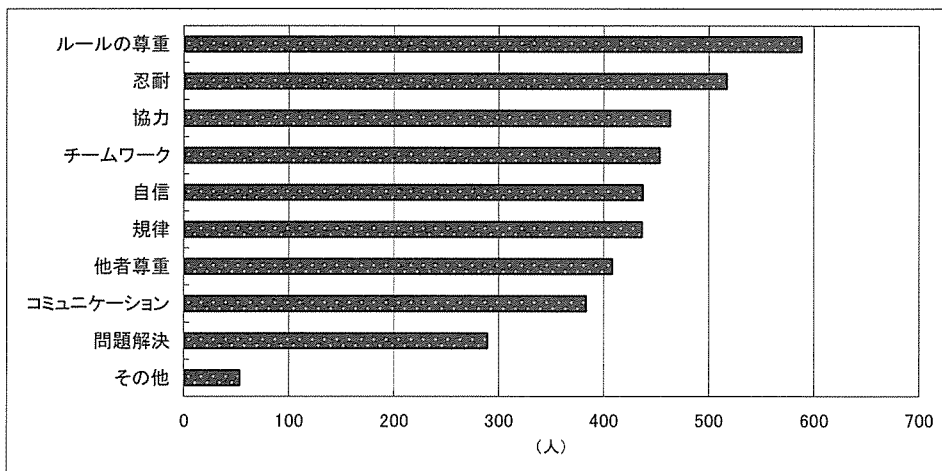


3. スポーツの成果

(1) スポーツを通じて学んだこと

「ルールの尊重」、「忍耐」、「協力」と続いた。複数回答が多く見られたことから各々の大会参加者が、スポーツ活動を通じて様々な要素を学んでいることが分かる。

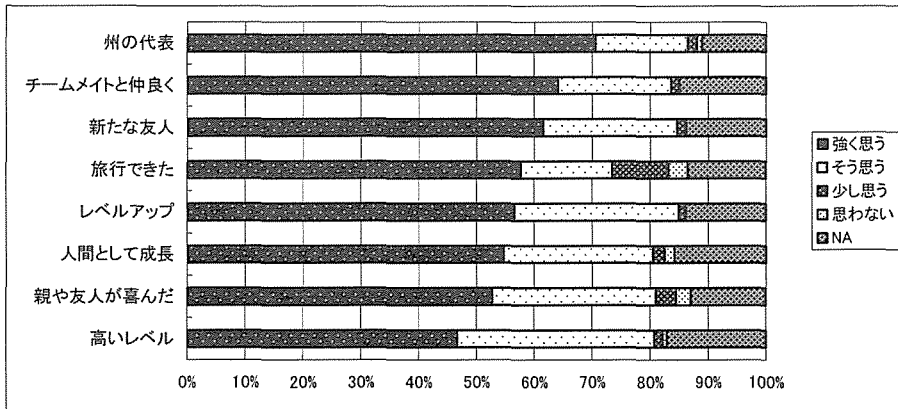
図10 あなたはスポーツ活動の実施を通じて何を学びましたか



（2） 全国大会に参加してよかったこと

州の代表選手として大会に参加することを喜ぶ回答が最も多かった。また、長期間にわたり同じ場所で寝泊りを共にすることから、同じ学校のチームメイトと仲良くなるのみでなく、新たな友人もできるようなのである。これは、大会期間中の試合のない日に、それぞれの地区が遠足や観光などのイベントを組み込んでいることも大きな要因であると推測できる。また、他の項目でも大きな差はなく、全体に「強く思う」との回答が多いことから、全国大会への参加をあらゆる側面から喜ぶ姿が伺える。

図 11 あなたが全国大会に参加してよかったと思うことは何ですか



第3章 地区別調査結果

1. 学校のスポーツ環境

(1) 練習の回数及び時間

シェムリアップ、プレイヴェン、オッターミエンチェイの3地区は、練習日数が週7日との回答が50%を超えた。これは、休日の個人での練習や、友人との遊びの中での練習も含まれると推測される。州によってかなりのばらつきが見られるため、今後、全国大会の成績や種目間、性別間での違いを見る必要がある。

図12 週当たりの練習日数（地区別）

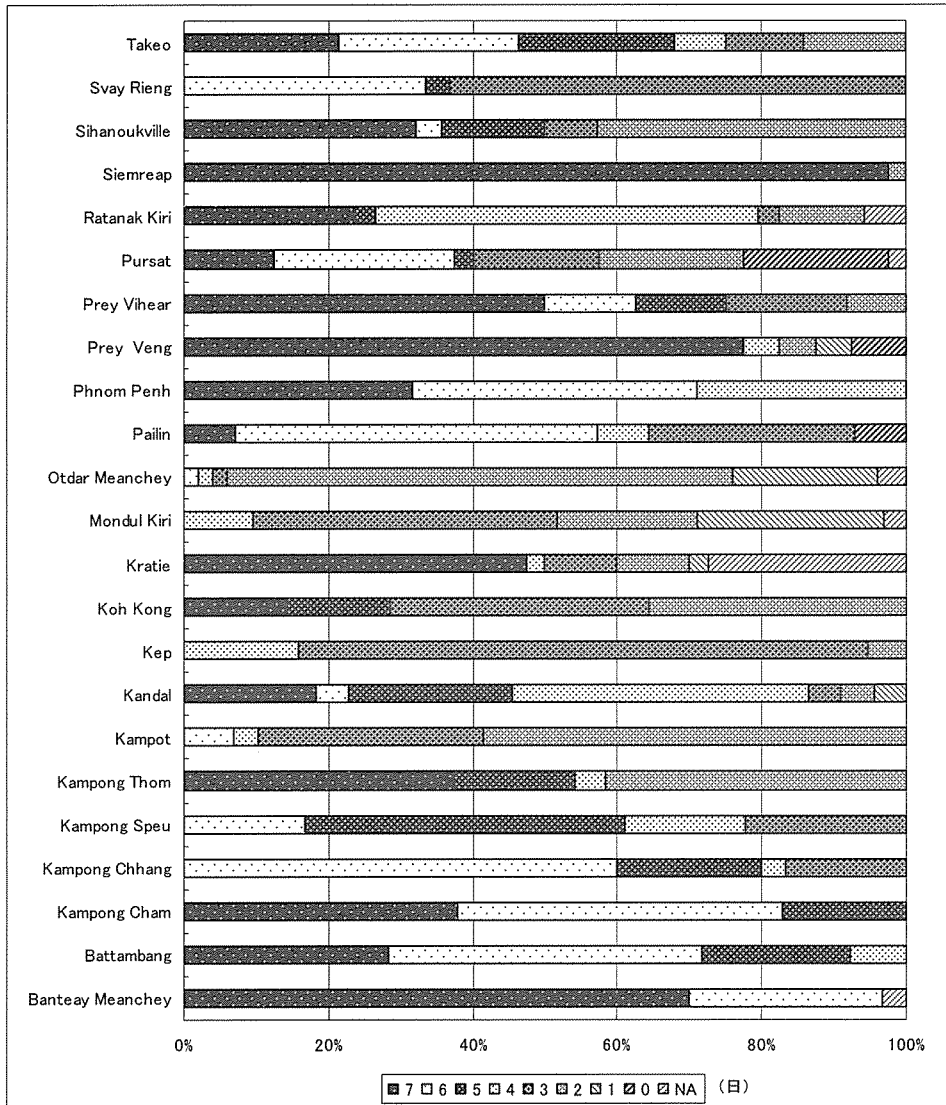
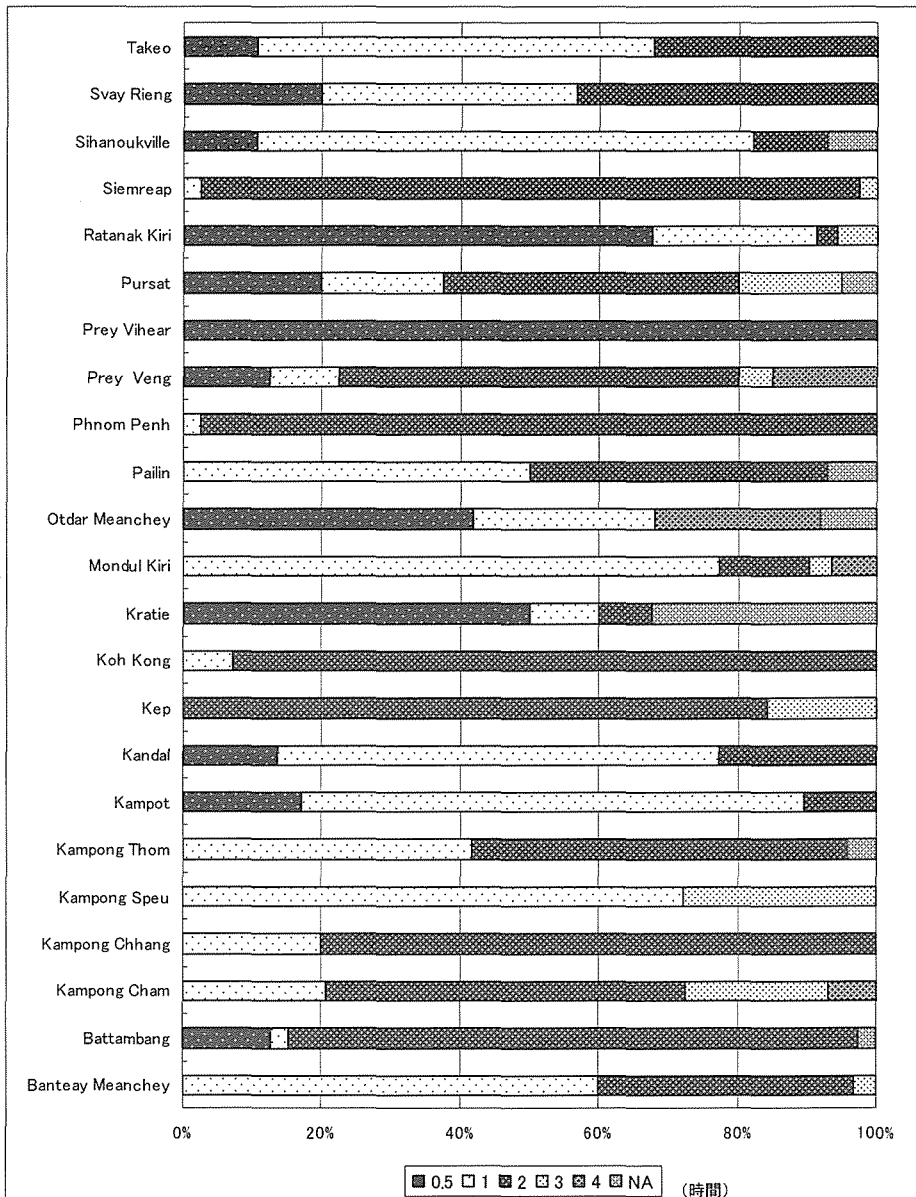


図13は、地区別の1回の練習時間を示している。週当たりの練習回数にはばらつきが見られたが、練習時間は30分から2時間との回答が極めて多かった。カンボディアの気候を考えると、日中の屋外での長時間に渡るスポーツ活動は大変困難である。コーチの指導方法や回答者の種目、年齢、性別等によって練習時間は異なると思われる、州の間での大きな差は見られなかった。

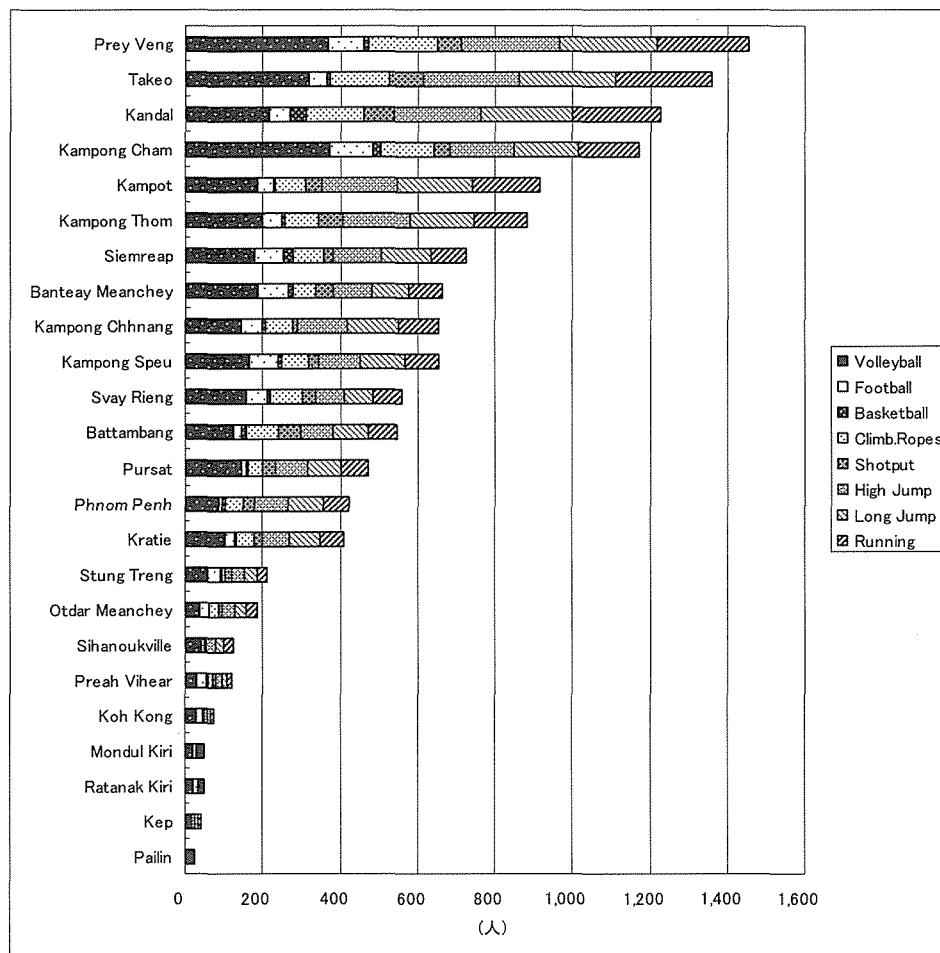
図13 1回の練習時間



(2) 学校にあるチーム

図 14 は、カンボディア教育・青少年・スポーツ省（MoEYS）の 2002 年の資料を参考に作成した。スポーツチーム数の多いプレイヴェンとタケオは、共にスポーツ教員数が 86 名と全国で最も多い。一方で、スポーツチーム数の少ないパイリン、ケップ、ラタナキリ、モンドルキリ、コッコン、プレイヴィヒアの 6 地区は、全てスポーツ教員の数が 5 名以下であり、スポーツ教員数とスポーツチーム数の相関が見られる同時に、地区による格差が明らかになった。

図 14 全国の小学校のスポーツチーム数（MoEYS 2002）



(3) スポーツをする上での問題点

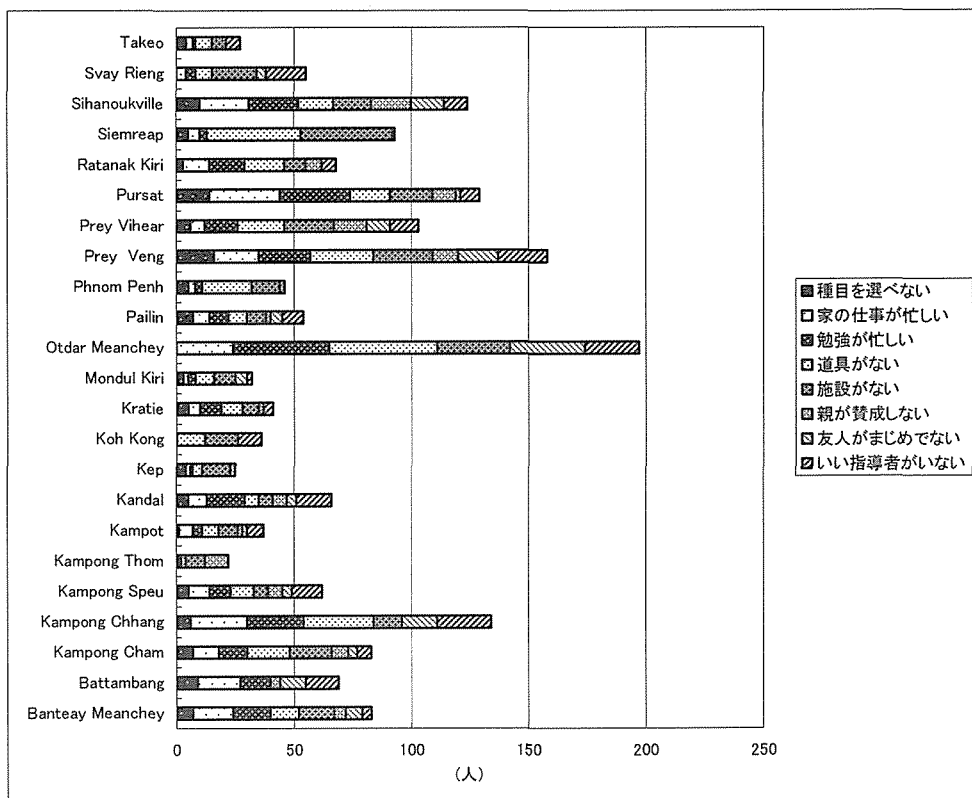
図 15 は、スポーツをする上での問題点について、「強く思う」と「思う」を合わせた値の地区別合計である。各地区間の量的な比較は成り立たないが、①用具や施設の不足といった経済的制約、②勉強や家の仕事が忙しいといった時間的制約、③指導者の不足の問題

の3つの傾向が浮かび上がる。この問題の組み合わせは、地区によって異なり、ラタナキリ、オッターミエンチェイ、クラチェの3地区では、施設はあるが用具が不足しており、仕事での忙しさではなく勉強が忙しいことが問題、との回答であった。また、コンボントムでは、親の反対がもっとも大きな問題点として挙げられた。

表1 各地区の主要な問題のパターン

主としてコーチの不足が問題である地区	主として施設や用具の不足が問題である地区	主として勉強や家の仕事による時間が問題である地区	その他の地区 (異なる組み合わせ)
タケオ スヴァイリエン パイリン コッコン カンダール カンボット コンボンスプー コンボンチャング バットバン	スヴァイリエン シェムリアップ プレイヴィヒア プレイヴェン プノンペン モンドルキリ コッコン ケップ カンボット コンボンチャム	タケオ シハヌークヴィル プルサット カンダール コンボンスプー コンボンチャング バットバン バンテアイミエンチェイ	ラタナキリ オッターミエンチェイ クラチェ コンボントム

図15 スポーツをする際の問題点（「強く思う」、「そう思う」と答えた合計）

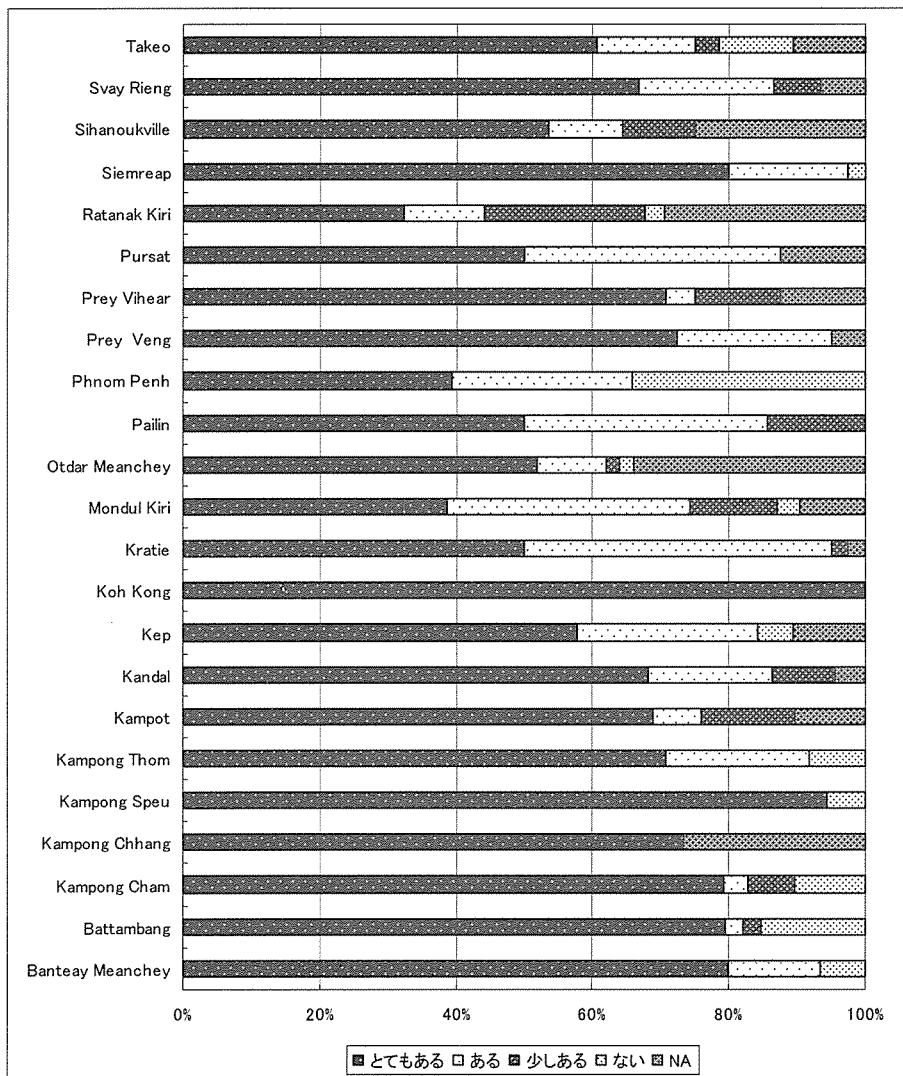


2. スポーツに対する認識と意識

(1) 国際大会に対する興味

「とても興味がある」と答えた割合が50%以下の地区は、首都プノンペンに加えて、モンドルキリ、ラタナキリ、クラチェと国の東部地区および、パイリン、プルサットの西部地区であった。プノンペンでは、「とても興味がある」との回答が少ないのみでなく、「興味がない」との回答も30%以上に上っており、他地域とは全く異なる傾向を示している。首都であるため、他にも子どもたちをひきつける魅力が存在するか、国際大会に興味を持たない別の理由があるかについて検証が必要である。

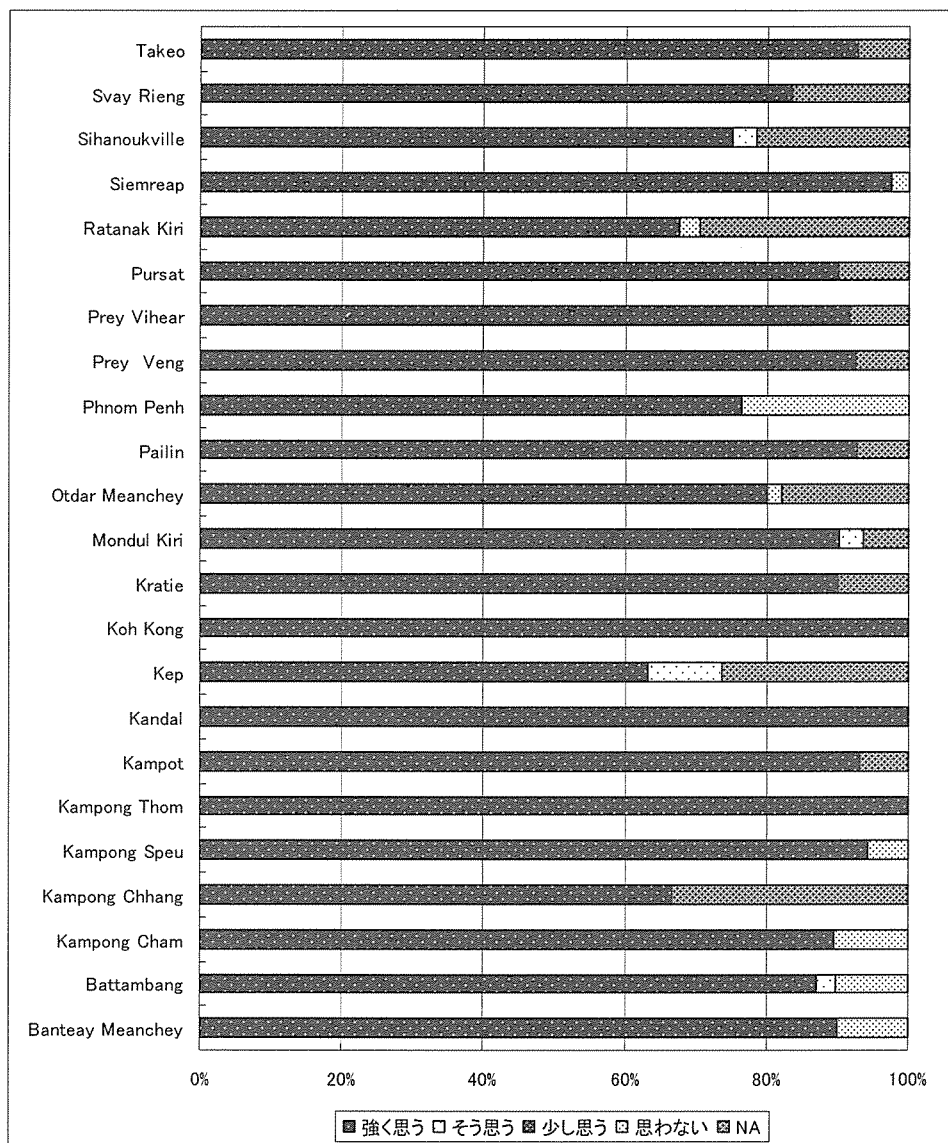
図 16 国際大会に対する興味（地区別）



（2）カンボディアのスポーツカ

「強く思う」との回答が、どの都市においても60%を超えている。特にコッコン、カンダール、コンポントムでは100%と極めて高い値であった。図16に示した「国際大会に対する興味」と同様に、プノンペンでの「思わない」との回答が20%と他地区と比較して特に高かった。

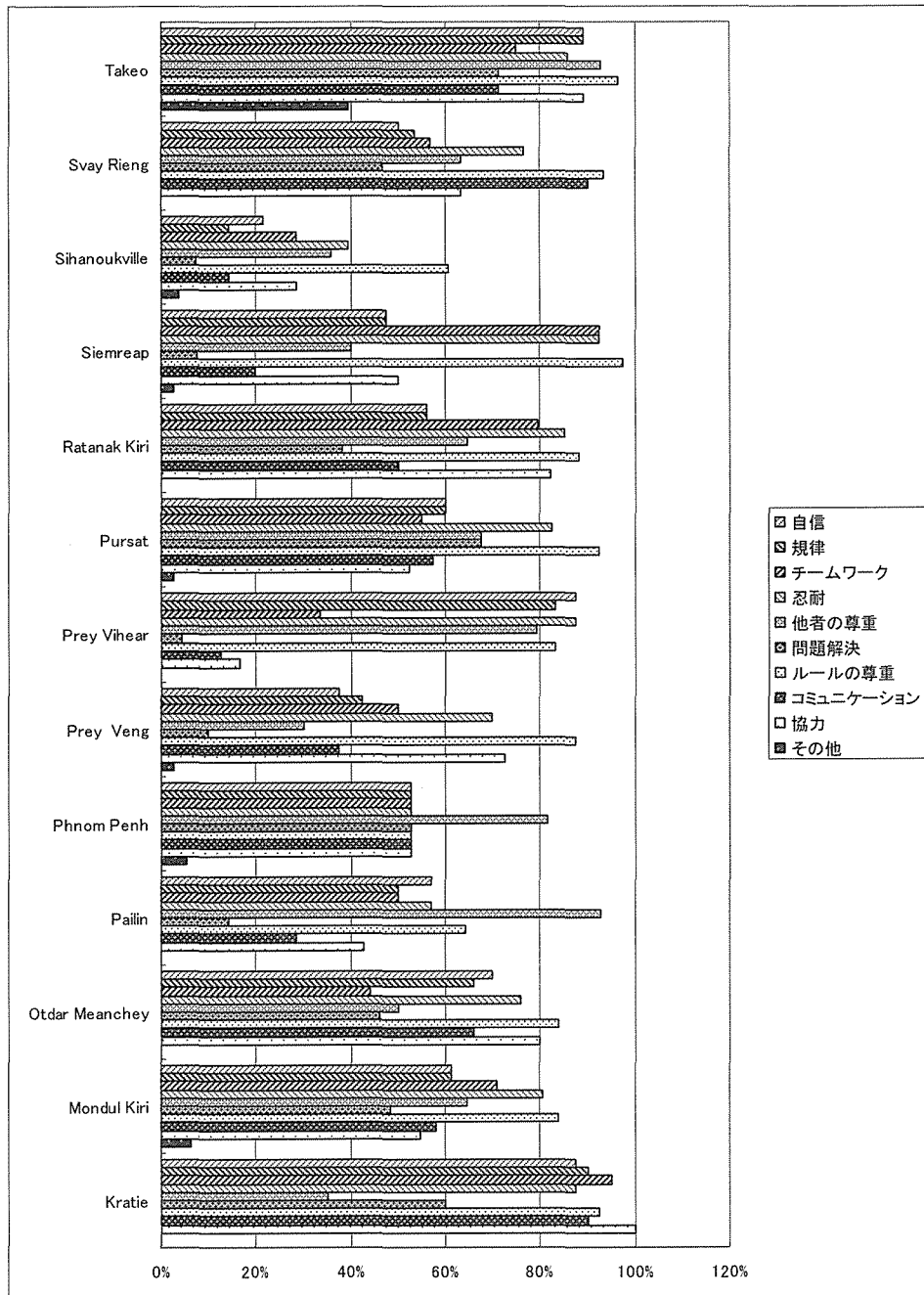
図17 カンボディアの国としてのスポーツカ（地区別）



3. スポーツの成果

(1) スポーツを通じて学んだこと

図 18 スポーツ活動の実施を通じて学んだこと（地区別）



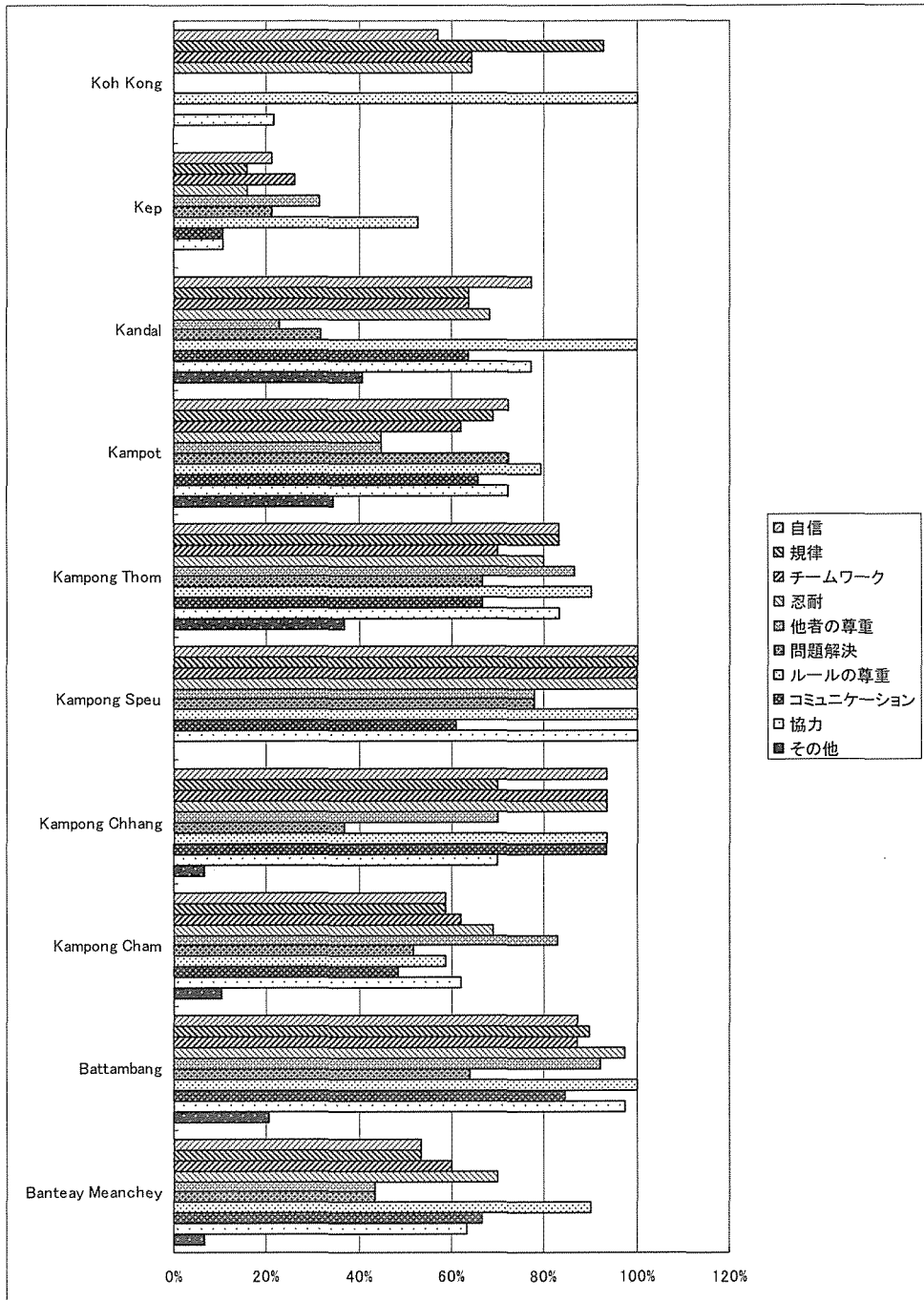
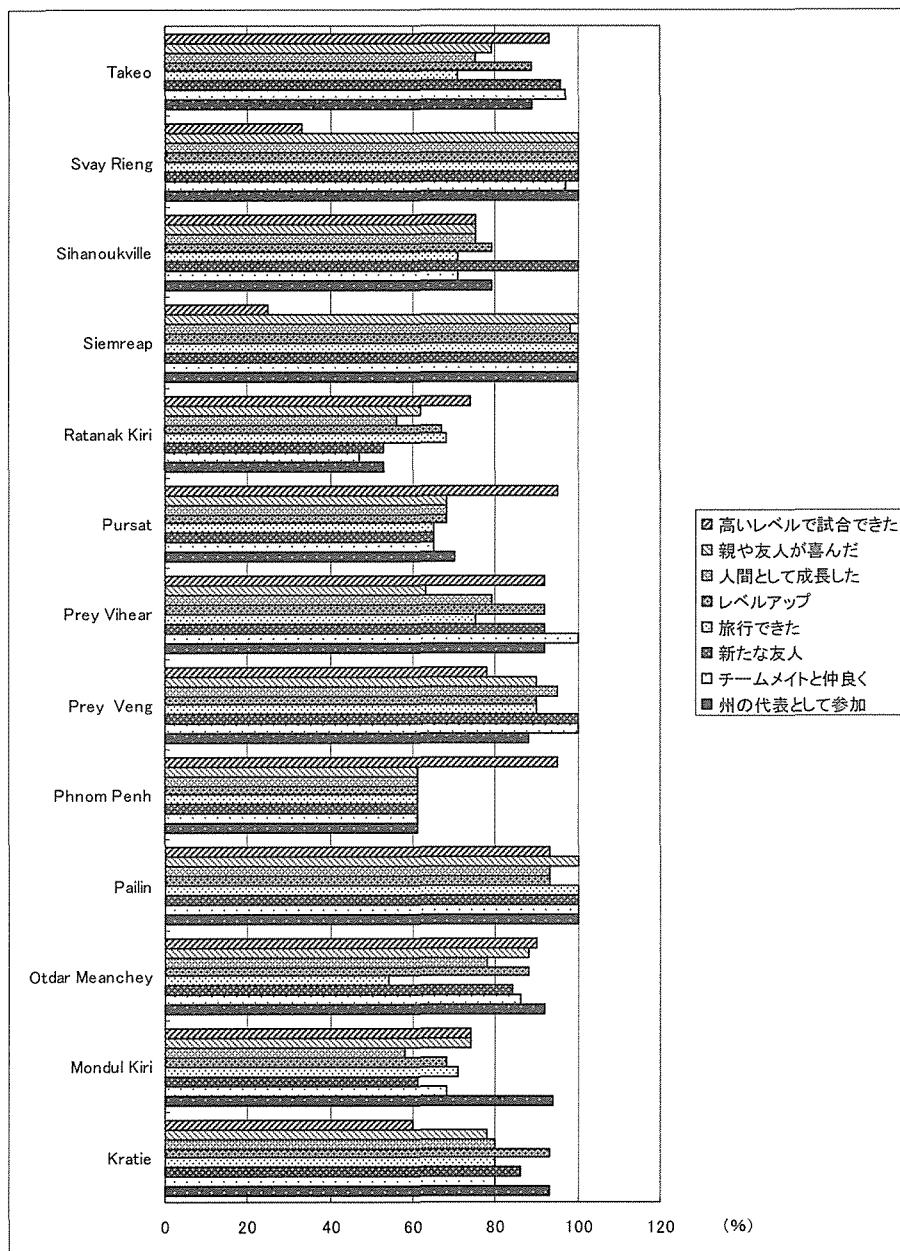


図 18 は、スポーツ活動の実施を通じて人間的な成長を促す複数の要素を挙げている。最も学ぶことができた要素として「ルールの尊重」を上げた割合の多い地区が、23 州中 15 州に上った。続いて「他者の尊重」が 3 州である。一方で、プレイヴェン、クラチエ、

カンダールでの「他者の尊重」は、他の要素と比較して低い値にあった。「問題解決」や「コミュニケーション」は、多くの地区で低い値でみられた。

(2) 全国大会に参加してよかったこと

図 19 全国大会に参加してよかったこと (地区別)



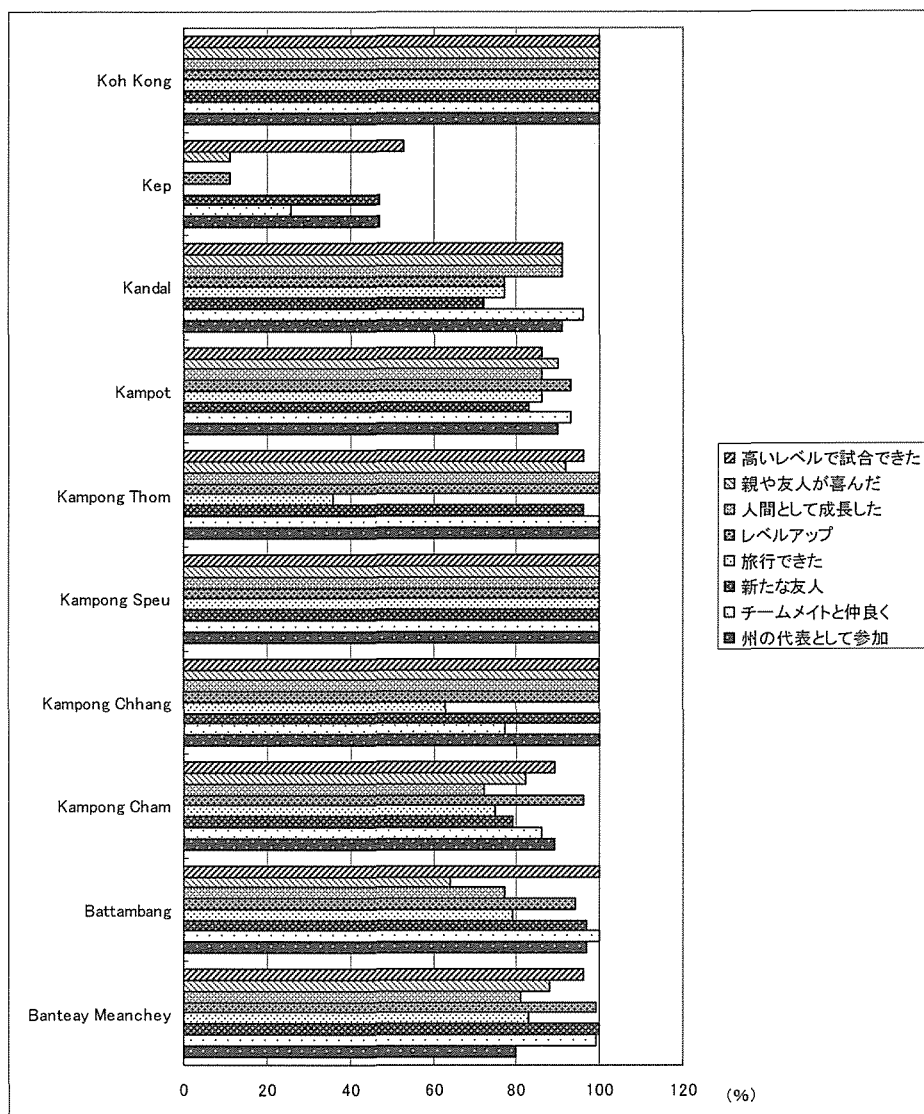


図 19 は、全国大会に出場してよかったと思うことの各項目について「強く思う」と「そう思う」の回答を合計した割合を示している。複数の回答が 100% を示した地区を除くと「チームメイトと仲良くなった」との回答が最も多かった地区が 23 州中 6 州、続いて「高いレベルで試合ができた」が 5 州、「新しい友人ができた」、「競技レベルが上がった」、「州の代表として参加できた」が各 3 州ずつであった。「高いレベルで試合ができた」との回答は、図 11 で示したように、全体としてはそれほど高い値を示していないが、ラタナキリ、ブルサット、プノンペン、ケップ、バタンバン州では最も多い回答となった。一方で、スヴァイリエン、シムリアップ、クラチェでは、「高いレベルで試合ができた」との回答は、他項目と比較し最も低い値を示した。

第4章 その他の結果

1. スポーツ教員数

表2は、MoEYSの資料から、近年のスポーツ教員数の増減を示している。全国的なスポーツ教員数は、1998年に647人、2000年に669人、2002年に792人と、1998年から2002年では22.4%の増加が見られる。1998年との比較では、2002年のスポーツ教員数が増加した地区は14州に留まり、残りの9州では減少していた。この資料は、地区別のスポーツ教員の割合ではなく絶対数を示しており、就学率が上がり、学校数が急増する近年の状況からすると、スポーツ教員の減少は全国的な問題であると言わざるを得ない。図21は、MoEYSの資料から、各地区の総教員数に占めるスポーツ教員数の割合を示している。スポーツ教員の割合の高い地区は、最も高いストゥントゥラングを除くと、プルサット、コンボンスプー、タケオ、プレイヴェン、バツタンバンと南西部に集中している。スポーツ教員数の割合の高い地区は同時に、図22に示すように「教員一人当たりの生徒数」が少ない傾向にある。

表2 近年のスポーツ教員数（人）

Province	2002	2000	1998
Banteay Meanchey	21	25	25
Battambang	68	67	71
Kampong Cham	71	61	77
Kampong Chhnang	16	14	11
Kampong Speu	69	37	45
Kampong Thom	27	16	18
Kampot	30	21	20
Kandal	57	66	59
Kep	2	2	1
Koh Kong	4	3	6
Kratie	18	14	16
Mondul Kiri	1	3	3
Otdar Meanchey	4	4	—
Pailin	2	1	0
Phnom Penh	76	65	63
Preah Vihear	5	2	1
Prey Veng	86	66	76
Pursat	55	32	17
Ratanak Kiri	4	2	1
Siemreap	31	31	36
Sihanoukville	9	13	11
Stung Treng	16	8	3
Svay Rieng	34	26	40
Takeo	86	90	47

図 20 2000 年度のスポーツ教員数(人:MoEYS)

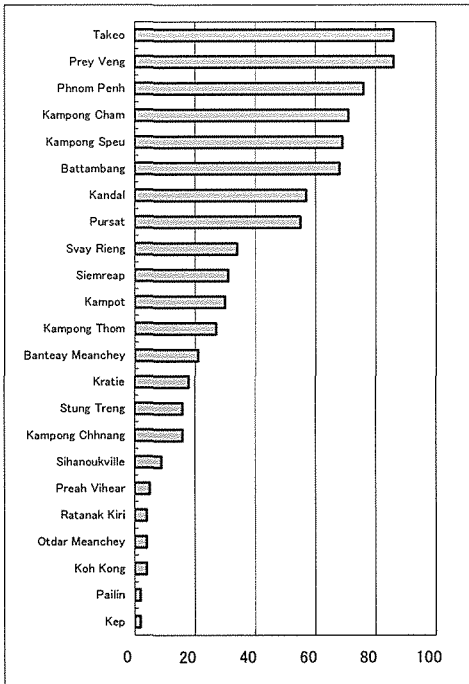


図 21 総教員に占めるスポーツ教員の割合

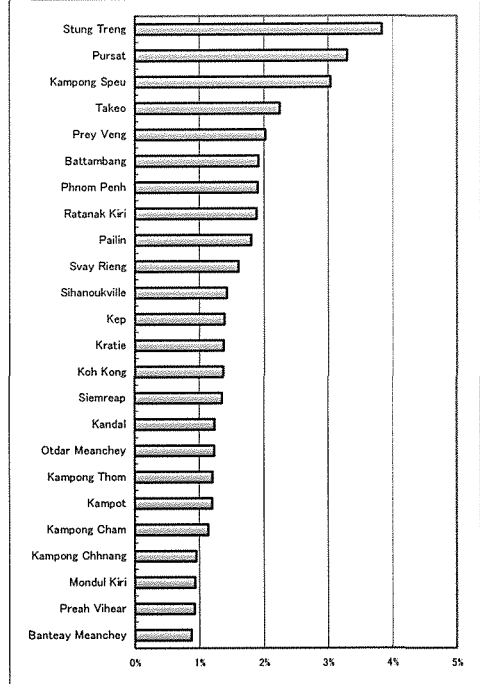
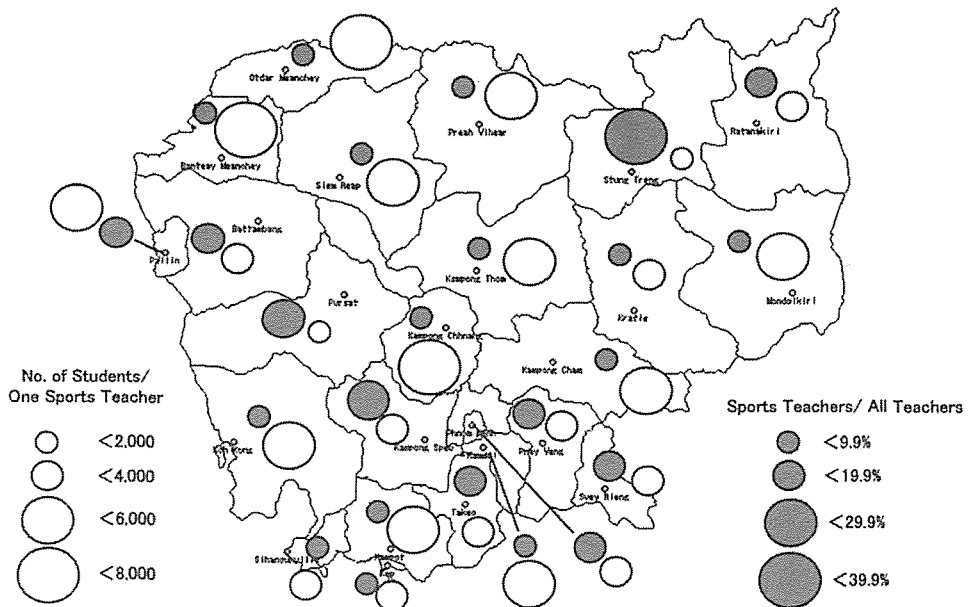


図 22 全国小学校の生徒数とスポーツ教員数



2. プレイグラウンドの広さ

表3は、MoEYSの資料から、近年の小学校におけるプレイグラウンドの広さの増減を示している。全国の小学校のプレイグラウンドの広さの平均は、1998年に8,232 m²、2000年に7,726 m²、2002年に7,506 m²と年々減少している。これは、学校数の増加に伴うものとも言えるが、学校の敷地をできる限り子ども達が運動のできる場所にする試みがいくつかの学校ではなされているため、地区間、学校間の差が開く一方である。1998年から2002年の間にプレイグラウンドの平均面積が増加した地区は6州に留まり、残りの17州では減少していた。最も増加率が高かったのは、シハヌークヴィルで106%増、一方、プレイヴィヒアでは、全体で62%減であった。

図23、図24は、同じくMoEYSの資料から、グラウンドの広さに占めるプレイグラウンドの割合を地区ごとに示している。2002年のグラウンドの広さの増加率が圧倒的に高かったシハヌークヴィルが唯一70%を上回っている。続いて、オッターミエンチェイ、コンボンチャム、クラチェ、スヴァイリエンは、60%を超えた。パイリン、モンドルキリの2地区では、30%に満たなかった。

表3 近年のプレイグラウンドの広さ (m²)

Province	2002	2000	1998
Banteay Meanchey	11,748	8,800	9,700
Battambang	6,920	7,233	6,820
Kampong Cham	7,258	7,858	9,005
Kampong Chhnang	12,324	12,268	14,604
Kampong Speu	10,845	10,775	11,011
Kampong Thom	7,138	7,559	8,398
Kampot	6,938	7,162	7,368
Kandal	7,132	8,780	9,162
Kep	3,404	4,656	4,692
Koh Kong	5,135	4,243	6,670
Kratie	5,369	5,958	7,827
Mondul Kiri	4,336	4,548	4,468
Otdar Meanchey	15,768	6,698	—
Pailin	3,655	8,333	2,625
Phnom Penh	7,281	7,850	8,662
Preah Vihear	7,265	9,132	18,856
Prey Veng	6,275	8,528	7,298
Pursat	7,215	6,959	8,992
Ratanak Kiri	3,682	3,385	3,048
Siemreap	5,902	11,153	7,376
Sihanoukville	11,324	6,577	5,474
Stung Treng	4,602	6,596	4,087
Svay Rieng	9,270	8,665	10,271
Takeo	9,363	11,556	12,927

図22 近年のプレイグラウンド(m²)

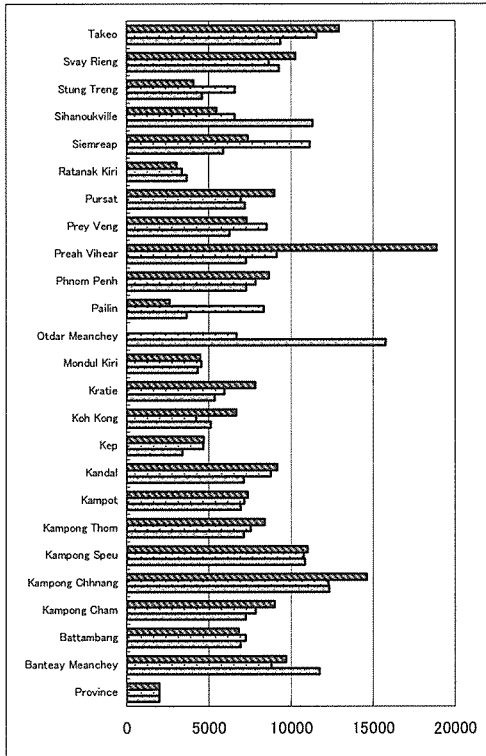


図23 グランドの総面積に占めるプレイグラウンドの割合

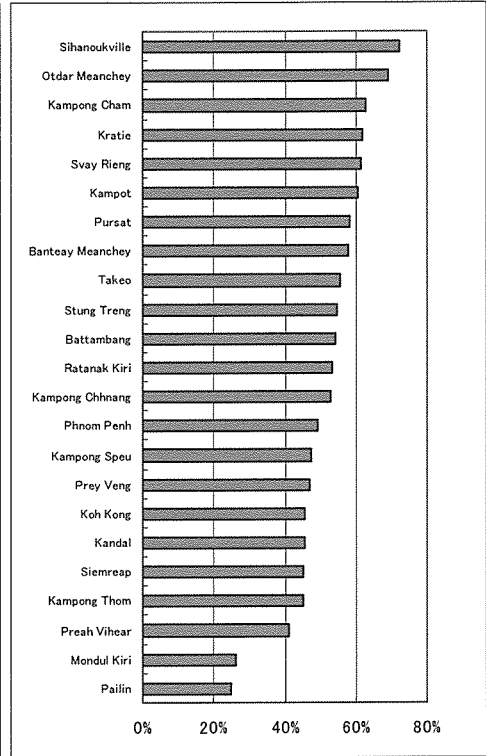
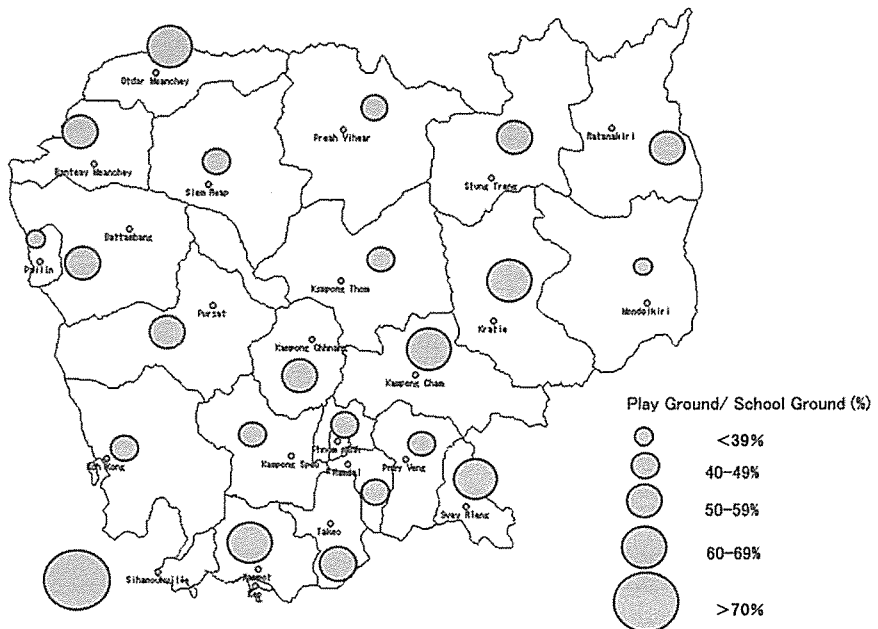


図24 グランドの総面積に占めるプレイグラウンドの面積の割合



3. スポーツチーム数

表4は、MoEYSの資料から、学校数に対する各スポーツチームを有する小学校の割合を示している。各種目の平均値は、バレーボール41%、サッカー14%、バスケットボール3%、クライムロープ16%、陸上競技69%であった（陸上競技では、一部地域で男女のチームを2と数えた学校があり、100%を超える値になったと推測される）。この平均値を5種目中4種目で上回った地区は、コンボンチャング、コンボンスプー、プノンペン、プレイヴェン、スヴァイリエンの5州である。一方、5種目全てで平均値を下回った地区は、バタンバン、ケップ、ラタナキリの3地区であった。これらの数値は、種目ごとのチーム数を示すものであり、様々な種目で平均的に普及を行っている地区も存在するため、単純にスポーツ普及の度合いを示すものではない。種目を問わず、チーム数のみの平均では、コンボンチャング、タケオが44%で、プレイヴェンとカンボットが42%と続いた。

表4 学校数に対するスポーツチーム数の種目別割合

	Volleyball	Football	Basketball	Climb Ropes	Athletics	Average
Banteay Meanchey	43%	18%	3%	13%	55%	26%
Battambang	22%	3%	3%	14%	43%	17%
Kampong Cham	42%	13%	2%	16%	52%	25%
Kampong Chhnang	54%	20%	3%	26%	115%	44%
Kampong Speu	48%	21%	2%	21%	79%	34%
Kampong Thom	41%	10%	2%	18%	82%	31%
Kampot	52%	11%	2%	21%	126%	42%
Kandal	37%	9%	7%	26%	106%	37%
Kep	38%	12%	0%	4%	69%	25%
Koh Kong	32%	24%	1%	4%	23%	17%
Kratie	42%	11%	2%	19%	76%	30%
Mondul Kiri	41%	26%	7%	7%	20%	20%
Otdar Meanchey	32%	21%	1%	22%	71%	29%
Pailin	27%	15%	0%	0%	23%	13%
Phnom Penh	49%	6%	5%	25%	113%	39%
Preah Vihear	22%	18%	3%	8%	28%	16%
Prey Veng	60%	15%	2%	29%	107%	42%
Pursat	54%	5%	1%	14%	72%	29%
Ratanak Kiri	21%	10%	3%	1%	8%	8%
Siemreap	40%	16%	5%	18%	66%	29%
Sihanoukville	43%	6%	5%	9%	70%	27%
Stung Treng	44%	24%	3%	4%	48%	25%
Svay Rieng	50%	18%	3%	26%	73%	34%
Takeo	60%	9%	2%	28%	121%	44%

図 25 バレーボールチームを有する学校の割合

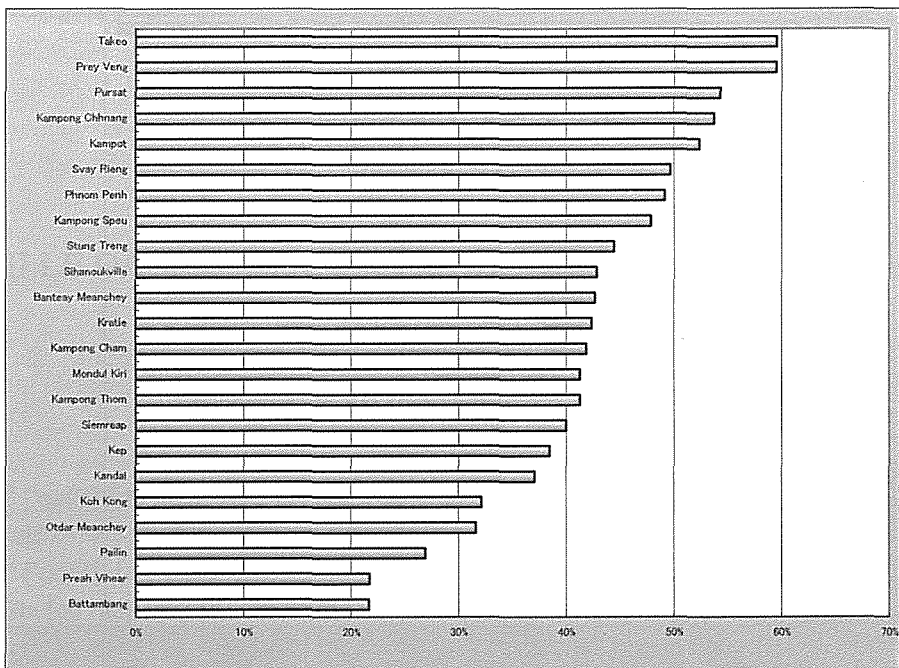


図 26 サッカーチームを有する学校の割合

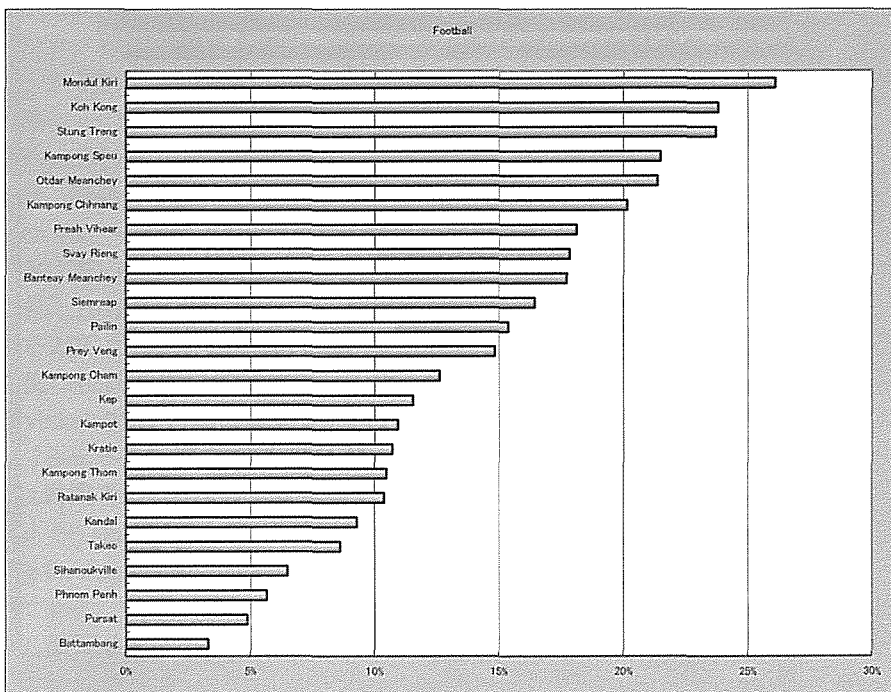


図 27 バスケットボールチームを有する学校の割合

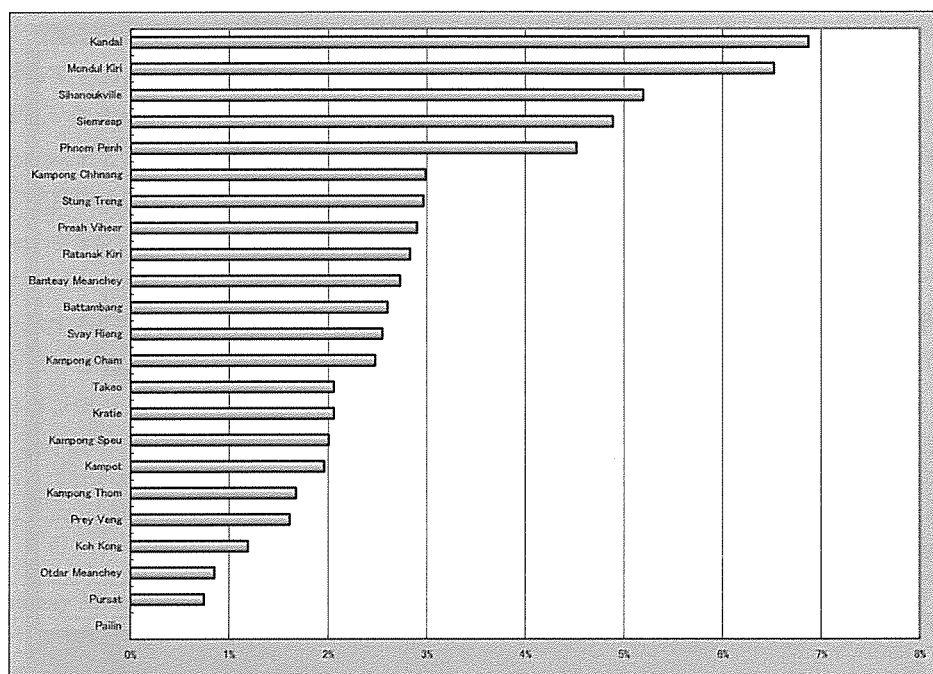
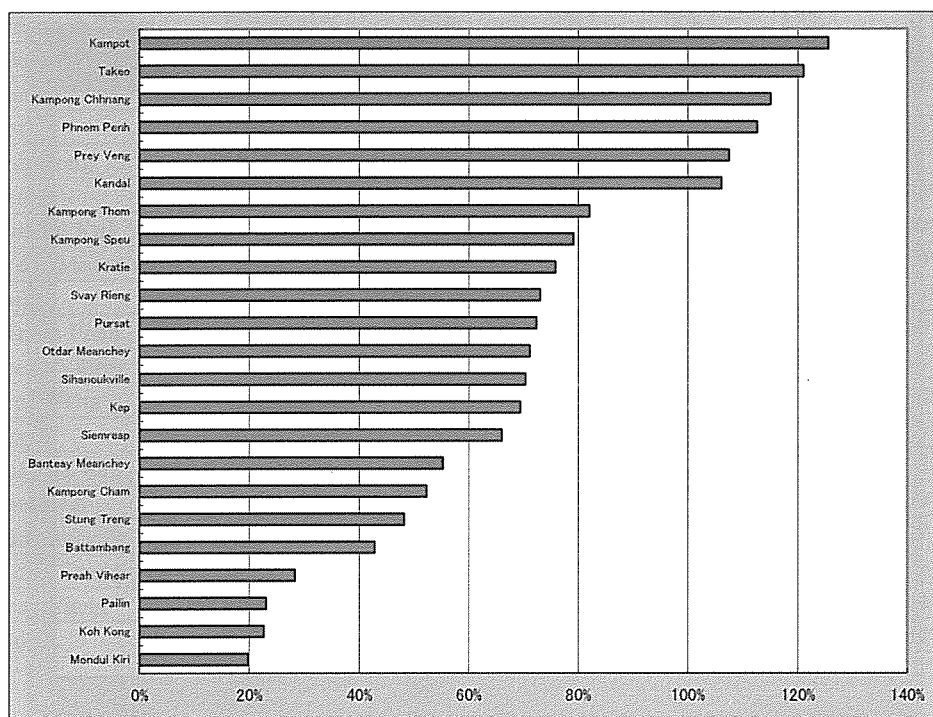


図 28 陸上競技チームを有する学校の割合



(2006. 8. 3 受理)